

日本のカミサマたちは3グループ（「大」「ふつう」「残余・消滅」）

～以下、書評「神の発明 カイエ・ソバージュIV（中沢新一 著）」＜藤森照信 評＞（毎日新聞 03.6.22）より～

（……………は中略部分。〔 〕は補足部分。青太字は引用者による。）

……………神というものは当初、万物に宿るスピリット（精霊）としてあった……………。人間の中に、クロマニヨン人
にはじまる**現代の人類の脳の中にそういう現実離れした存在を見失ってしまう機能が資質かつ物理的にそなわっている……………。**

だからこそ言語を獲得し抽象的思考を発達させて今の人間になれたのだ……………。その証拠〔となる〕……………原始人
の絵画や、現代人の実験……………が……………ある。

人類は、脳のあり方として、万物に神（超越的なもの）が宿るとせざるをえなかったのだが、……………そういうアニミズ
ム状態にとどまっているような原始的先住民は少なく、アメリカ先住民でもオーストラリアのアボリニジでも、もう一段階
進んでいて、**スピリット（精霊）たちの中からグレートスピリット（大精霊）が生まれた**多神教の状態にある。万神から、
大プラス小群の多神へ。日本の古来のカミサマはこの段階にあつて、**グレートスピリットのことを古代人はタマと呼んだ。**
ヒトダマ、コトダマ、タマシイ、マガタマのタマであり、さすがにグレートスピリットだけあつてそんじょそこの石や木
には宿らない。言葉にも宿っているのはうれしいが、言葉というものが人類の脳の現実離れ能力の代表的産物の一つとす
ると、当然のこと。

……………グレートスピリット……………ふつうのスピリット……………。沖縄では二つのスピリットがよく原始状態を
とどめて残っているが、グレートスピリットの方ほうはというと、「どこの村にも『御嶽（ウタキ）』という森があります。熱帯
性の植物が両側に生い茂る薄暗い小道をたどって、森の奥につきますと、そこにはこぢんまりとした空間が開けます。…
…なにか柔らかい霊的な膜によって、現実の世界から隔てられた空間の内部に、包み込まれているような印象です」とい
うような場に住みついでいてこの世の秩序を保っている。一方、**ふつうのスピリット群は、来訪者としてあり、あの世から具
体的には深い森や暗い洞窟の奥から、奇怪なイメージを運び、具体的には奇妙な仮面をかぶったりして、祭りの時にやって
くる。豊穡や生殖や死などを司る神として。**

小便注意の川のカミサマのような日常的なのは……………グレートでも来訪神でもなく「残余のスピリット」……………で
ある。**山川草木あまねく宿った段階のスピリットは、〔50年ほど前には〕子供相手のカミサマになりとっくに残余化**してい
たのである。**今は、それも消滅した。**

多神教段階の神の居場所について、沖縄を例にグレートスピリットは深い森の中に開かれた明るい空き地に垂直的に、ふ
つうのスピリットは森の奥に水平に広がって住んでいるという説明を読んで、すぐ伊勢神宮を思い出した。伊勢は、仏教登
場以前は正殿はなく、今は正殿の床下に立つ心御柱（しんのみはしら）が明るい石敷きの空地にポツンと立っていた。正殿
は仏教導入以後、仏教寺院に対抗して作られた、という建築史の説があり、もしそうだとすると、沖縄と同じだったこと
になる……………。